

J. VILLAGE

ジャパン・フットボール・ヴィレッジご紹介

雪印種苗(株) 緑化造園部 千葉正樹

はじめに

平成6年に東京電力(株)が、福島県にサッカーナショナルトレーニングセンター構想を提案し、福島県、日本サッカー協会、Jリーグ、東京電力の協力のもと、福島県双葉郡楡葉町と広野町の2つの町にまたがり建設されたのが、Jヴィレッジ(サッカー・ナショナルトレーニングセンター)です。

Jヴィレッジは、我が国最大のサッカー専用トレーニング施設で、国内外のトッププレーヤーから子供達にいたるまでの幅広い層の練習、合宿の場であると同時に、指導者、審判、トレーナー等サッカーの専門的人材養成の場としての施設でもあります。

建設工事は平成7年9月より土木工事が前田建設企業体で着手、センター施設建築工事が、鹿島建設企業体により平成8年4月に着工されています。

当社緑化造園部も企業体の一員として、平成8年4月からこの工事に参加し、サッカーグラウンド造成工事を行っております。中でもメインは天然芝コート11面(屋根付スタジアムを含む)の土壌改良、播種工事であり、平成9年5月30日のJヴィレッジ完成引渡しまでの芝生の養生管理を行ってきました。

1 工事概要

所在地：福島県双葉郡楡葉町、広野町

敷地面積：約49.5ha

完成引渡し：平成9年5月30日

オープン：平成9年7月18日

発注者：東京電力株式会社(竣工後福島県に

寄付)

総工事費：130億円

運営主体：(株)日本フットボールヴィレッジ

2 施設概要

(屋外)

サッカーグラウンド：天然芝ピッチ(68m×105m)10面

サッカースタジアム(屋根付)：天然芝ピッチ(観客数約5,000人)1面

フットサル専用コート：人工芝2面、ウレタン2面、サンド1面(40m×20m×5面)

サッカートレーニングフィールド：人工芝ピッチ(68m×105m)1面、400mトラック(ウレタン)4コース、ウッドチップジョギングコース

(屋内)

雨天練習場：ハーフサイズ人工芝ピッチ1面、

フィットネス施設：屋内アリーナ(19m×33m)、屋内プール(25m×4コース)トレーニングジム、マッサージルーム、大浴場、サウナ

宿泊施設(ホテル)：ツイン、フォーベッド88室、VIPルーム2室、チーム専用ロッカー室、コミュニケーションルーム

その他：レストラン、コンベンション施設
サッカーミュージアム

3 天然芝ピッチ床土構造(図)

砂のpHは広野砂が低く、中国砂が高いアンバランスな状態にあり、芝の育成面では非常に神経を使いました。粒度的には0.1mm~2.0mmものが95%以上で、透水性がとても良い芝生基盤となって

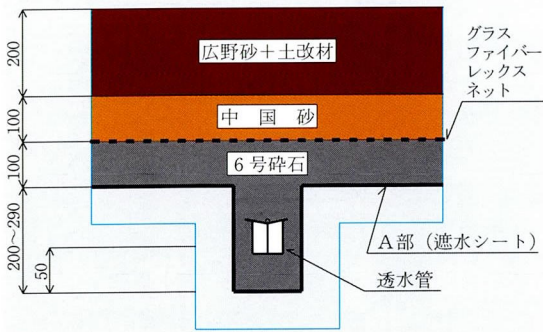


図 貯水式システム

います。

また暗きよの標準ピッチは12mで敷設しています。No.4～No.6のグラウンドにはA部に遮水シートを敷設し貯水式システムを試みています。

スタジアムNo.1～No.3とNo.8～No.12のグラウンドには遮水シートは敷設しておりません。

4 土壌改良材及び肥料の種類

1) 土壌改良材 (表1)

土壌改良材は厚さ15cmにトラクターで十分な混合かくはんを行いました。

スタジアム (No.1) にはフミロンを使用し、それ以外のNo.2～No.6, No.8～No.12のグラウンドにはピートモス (北海道農材工業製品A級) を使用しております。

2) 肥料 (表2)

5 草種、品種と混播比率

品種と混播比率は現地の広野町の圃場にて造成の1年前から試験を行い、今回の品種混播比率を決定しました。

芝種子は当社の種子を使用しています。11面の天然芝グラウンドは、ケンタッキーブルーグラス主体とトールフェスク主体の2つに分かれています (表3, 4)。

表1 土壌改良材

区分	種類	混合率	施用量 (ℓ/㎡)
焼成珪藻土	アクシス (中間物質系)	比率:10%	15.0
フミロン(ピートモス)	フミロン(ピートモス) (動植物系)	比率:5%	7.5
微生物資材	タテヤマユキ (有機系)	比率:1%	1.5

表2 使用肥料

肥料の種類	含有成分(%)	施用量 (g/㎡)	施用時期
エスカリュウ(速効性)	Ca:25	100	改良材混合時
オオマグスター(炭酸カルシウム)	Ca:55	100	〃
ダーウィン2000(硫酸カルシウム)	Ca:33	80	〃
ハイコントロール(暖効性)			
ポリSスター(19.5kg袋)	N:16 P:25 K:12	50	改良材混合時
ポリSアイアン(17.96kg袋)	N:24 P:3 K:10	50	〃
白ばら555化成肥料(速効性)	N:15 P:15 K:15	60	播種前
過リン酸石灰(速効性)	P:17	60	〃

表3 ケンタッキーブルーグラス主体の草種比率

草種	品種	比率 (重量%)	比率 (粒数%)	施用量 (g/㎡)
ケンタッキーブルーグラス	スノー-KB	25.0	33.7	10
〃	スノー-KB II	37.5	52.5	15
トールフェスク	ピクシー	12.5	3.0	5
チューイングフェスク	ロングフェロー	12.5	6.7	5
ペレニアルライグラス	A P M	12.5	4.0	5
計				40

表4 トールフェスク主体の草種比率

草種	品種	比率 (重量%)	比率 (粒数%)	施用量 (g/㎡)
ケンタッキーブルーグラス	スノー-KB	10.0	26.7	5
〃	スノー-KB II	10.0	27.8	5
トールフェスク	ピクシー	50.0	24.1	25
〃	スノー-TF	20.0	10.7	5
チューイングフェスク	ロングフェロー	10.0	10.7	10
計				50

6 調査、試験、管理

播種時期は春播きがスタジアム (No.1), グラウンドNo.4 (平成8年5月27日～6月5日) の2面。

秋播きがNo.2～No.3, No.5～No.6, No.7～No.12のグラウンド (平成8年9月1日～10月15日) 9面に播種を完了させ発芽後から現在まで養生管理を行ってきました。

この刈込み、施肥、殺菌、殺虫、散水、コリアング、目砂といった養生管理と共に日常管理として、PF測定、地温、気温、湿度等の測定、そしてまた、定期計測として月1回の割合で土壤硬度、透水速度、PH、EC、根長、芝密度、草種比率の変化等の試験、測定も合せて行っております。



写真1. 播種作業風景



写真3. 3連モアで6回目の刈込み



写真2. 発芽後30日目の芝生

更にはプレーイングクオリティの調査に関しても月1回程度、草丈、表面硬度の違いによるボールの弾み具合、ボールの転がり具合、トラクション等の調査も行い、日常管理、定期計測も含めてオープン後、最良のスポーツターフの維持管理に役立てるための、データ収集などを行っています。

おわりに

国内最大のサッカー専用施設であるJヴィレッジは、各方面から様ざまな意味で注目されており、現場では最高級のサッカーピッチの完成を目指してハイレベルな施工管理が要求されてきました。



写真4. 完成芝生

その内容はこれまでになく厳しく精度の高いもので、一時は肉体的、精神的に本当に疲れてしまったほどであります。

しかし、こうした中、日本サッカー協会の長沼健会長をはじめ、多数のサッカー関係者の方々が視察にこられ、大いなる賛辞をいただくと共に、マスコミ等で大々的に取り上げられたことは大きな喜びでありました。

今後、この施設が多くの人々に有効に利用され、繁栄されますことを心より願っております。